



クロノスナップ
今を生きる 人がそが宝
第6回

昭和木匠工芸 代表

馬場 宣

昭

(ばばのりあき)さん

〜工芸品などの伝統や文化を守り育てていくことも必要〜

◆塩狩での農業から

馬場さんは昭和14年に幌延町目梨別に生まれた。出生後まもなく父母とともに、塩狩に移住し、農業を営む。

そして、昭和26年には昭和44年閉校の塩狩小学校を卒業。昭和29年に和寒中学校を卒業後、塩狩で父の後を継ぐべく農業に従事することを決意した。

しかし、冬期間には仕事がないため、冬山造材で出稼ぎに出ることになる。冬場での丸太を運班する作業は大変な重労働であり、あまりの寒さに限界を感じたという。

その後、手に職をつけようと大工になるため、参考本などを買い独学で学び始める。そして、塩狩部落に冬期間のみ営業していた当時の農業

には欠かすことのできなかった農機具用木柄部分の製作出荷をしていた星木工場に長として勤めることとなる。しかし、出火全焼という災難に

まわれ、当時の酒向車両製作所の一部で営業を再開。この仕事をやっていたうちに酒向車両製作所に見習いとして、住み込みで2年ぐら修行した。当時は馬そり製作をして

いたという。その後、実家での農地が増えたため、一度は農業に従事することになるが、当時道内観光での木彫り製品が大量に売れはじめたこともあり、副業として木彫りを始めたのがきっかけとなっていく。

◆木彫り職人として

しだいにこの職業を本業にしたいと考え始めるようになり、本格的に木彫り職人としての技術を学ぶため、上士別の職人のもとで一から修行することを決意。本来なら5年修業のところをほぼ3年で技術を習得し、昭和41年に『昭和木匠工芸』として独立開業を

◆木彫りでのこだわり

開業以来、取引先の数も増し、商品の需要も多く、大量生産が求められるようになる。同時に、機械設備が必要となることから資金には相当苦労したという。

果たすことになる。当時は、熊の木彫りの他、蛙の木彫り、基盤・将棋盤など多くの種類を手がけてきた。そんな馬場さんは「木彫りには級も資格も必要ないが、自由な発想で作った作品そのものに価値があり、作品のすばらしさによって価値が決定される。厳しさもあるが、常にも他の商品とは違うもの、そしてそれ以上の商品を製作することにこだわってきた」という。現在では『昭和木匠工芸』と社名を変更し、看板・木塀・木工芸などの仕事

が主となり、時代の移り変わりとともに工芸品も少なくなってきた。こういった伝統や文化を守り育てていくことも必要だと語る。



馬場 宣昭さん [昭和木匠工芸] 69歳
和寒町字西町 TEL0165-32-2677
出身：幌延町生まれ
経歴：1951年 塩狩小学校卒業 1954年 和寒中学校卒業
1966年 昭和木匠工芸社創業 1996年 昭和木匠工芸に社名変更 2005年 和寒町消防団長
趣味：スキー、パークゴルフ